企業を育て
地域を伸ばす
商工会議所

函館商工会議所ニュース

発行所
函館市若松町15番7－61号
電話代表（0138）23－1181
函館商工会議所
編集発行人　高間　勉

市民のご協力を要望

地域的課題解決へ

経済界の役割を果そう

田中会頭あいさつ

新年お目出度うございます。願ふまでこの一年間、70年代を迎えるに当りまして、誰しもが、いくばくかの思惑と期待を心ひそかに託して新しい年を迎えることと存じます。

しかしながら、人間の努力にも限界がありまして必ずしも事が計画通り進まないのが人間社会の常であります。

さて、過去一年間の国内のうごきを回顧して、とくに本所、とりわけ、アイスクリームを通じて、日本人の絶大な人気をうけ、人間の欲望をテーマに開かれました万国博覧会を通じて、日本人の絶大なエネルギーが全世界に顕示されたことと、あっという間に日本全土に拡まった事実は、前年の二つの大学問題と安保問題に取って替って全国民の関心をあつめたようであります。

〈ヘルメットとゲバ棒に象徴された一連のラジカリズムは、あたかも潮ひくように、なんとなく影をひそめたようにも見られます。

工業化時代の進展による公害問題の発生も、その源をただせば、人類の知恵の所産であり、逆説的にいえば人類の知恵が自らの手で人間を破滅の淵に追い込みつつあるともいえましょう。

第64回臨時国会で佐藤首相は〝国民生活優先の見地から公害対策基本法の改正を提案した〟と所信を表明しております。科学技術の発達により派生した公害は近い将来、科学技術によって克服できるものと私は確信しております。

やみくもに肥大しつづける経済成長を手放しで喜びを通して、日本人の絶大な時でなく、心をじっくり日本の前途を憂へ秋かと存じます。

国際問題はさておき、今年の内政主要問題は、物価問題と公害問題とありますが、この際、政府に有効適切な手を早く打つよう要望すると同時に、国民もまた国民の立場からこれらの問題と前向きの姿勢で取り組むハラを固めなければと考えます。

なお地域的課題としては推進団総合開発基本計画の推進があります。期待を寄せた北海道第3期総合開発計画も依然として道央中心の嫌いがあって期待薄のようであります。当商工会議所としましては、昨秋社会党代表団が来函されました際、この改選を機に地域開発に関して経済界として分担すべき役割について着々検討中であり、業界を挙げて協力を固めつつあります。

市民の皆さんにも何卒ご協力下さいますようお願い申しあげて年頭のご挨拶といたします。

叙勲祝賀会

田中会頭の

秋の叙勲で勲五等双光旭日章に叙せられた本会議所田中会頭の栄誉をたたえようと渡辺熊四郎（椿二森屋社長）阿部平三郎（函館厚生院理事長）飯田貞一（ベンケイ鉛社長）ら三氏が発起人となって十二月十七日午後二時から拓銀ビル8階ホールで祝賀会（写真）が催された。パーティーには市内の各界から三百余人が出席した。

矢野市長、蔵原日銀函館支店長らから祝辞と記念品が贈られた田中会頭は「この栄誉を肝に銘じ地域振興と産業発展のため老骨を捧げたい」と謝辞を述べた。このあと祝宴にはいり会興なごもあった。

本所初の受賞

道は四十五年度から「北海道産業貢献賞」を設定し、この第一回表彰に函館商工会議所が選ばれ、十一月三十日札幌市で行なわれた授賞式に会頭代理で鈴木副会頭が出席、表彰状と記念の盾（写真）が贈られた。この盾は函館と小樽両会議所だけである。

私見

地下歩道を造れ

田中誠一郎

融通も利かず、弾力性も柔軟さも欠いている。

そこで私は寒冷雪地域における役人の仕事ぶりを評して「官僚の画一主義」とよんでいる。画一主義は、見、聞、考えようによっては、公平なように見え、実施に当っても極めて平等であることは事実である。

その証拠として思い出されるのは戦時中における例の酒・煙草の配給制度である。当時は誰かが有難いことであったが、今となっては官僚の画一主義の代表的好例として笑い草の一つになっている。

71年の日本の重要課題は何かと問われれば、物価、公害、交通戦争、政府の政策、国民の意識改革、政治不信、反公害、反交通戦争、反政治不信、反権力、反官僚、反体制、反戦争、反ベトナム、反ニクソン、反佐藤、反自民、反資本、反金権、反物価

ヨーロッパ かけある記

雨にかすむイギリス国会議事堂をのぞむ

戦後25年後が国は全世界驚異の経済発展を遂げ、昨年は遂に国民総生産第二位に躍進した。

そこで私共も国際社会の一員として、広く視野を海外に向け、大いに国際感覚を身につけようと本所で欧州視察団を募集したところ、幸いに三十余人の参加を得、はからずも私が団行を命ぜられ、十一月二十三日深夜田中会頭を団長とする北海道班、東京のK二班と総勢百二十余人がKLMチャーター機で羽田を出発した。

往復アンカレッジ経由の北極回りであったが、時差の関係で先ず時間の観念を狂い、三時間手当全四時間毎に出される食事にげんなりしながらも、北極圏通過の感激を味わいつつ、ヨーロッパの軸点アムステルダムに着き、少憩の後、最初の目的地ローマについた。

パスポートの渡航目的にショートビジットと記載されている通り、非常にあわただしい業務だったが、その概観をまとめてみよう。

◇イタリア（ローマ、ミラノ）

各都市とも大ローマ帝国時代の中心、遺跡、そして古代建築技術のすばらしさ、ぐる内紛が常にあり、封建時代からだけではなく、朝廷内の争いが、ローマ帝国の衰亡の原因の一つであったと思われる。

◇フランス（パリ）

花の都パリというだけあって非常にハイセンスという感じを受けた。先入観のせいかもしれぬが街行く人々の服装、商店のウインドウ、ルーブル美術館、ルーブル美術館に一時立ち寄ったが、モナリザの絵ほか数々の名画、ミロのヴィーナスに代表される数々の彫刻はすべてオリジナルであり、私の人々は非常にきびきびして活力的であり、日本人に対して、親近感をもっていると思ったのは、私だけであろうか。

◇スイス（チューリッヒ）

スイスは単なる通過程度であったが、途中の風景がすばらしく、白銀のアルプス連峰が湖に映え、冬なお緑したたる芝生に残雪があり、絵葉書以上の景観に心を奪われた。正にバス旅行ならではの味わえない効果であった。

ローレンス、ミラノ、ローマ、ナポリ、ポンペイ、ベニスの中、ローマ、ベニスの中、ローマ、ベニスの中、ローマ